

令和5年度第1回通常理事会、令和5年度定時評議員会議決

令和4年度 事業報告書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

公益財団法人 仏教伝道協会

公益財団法人仏教伝道協会 令和4年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

については、定款に定める事業に沿って「令和4年度事業報告」を致します。

令和4年4月1日より令和5年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告（公1）

1. 趣旨（目的）まとめた理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等いろいろな支援事業を通して、世界中の一人でも多くの人に仏教を理解して頂き、豊かな人間性を育て、より良い社会の形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であり、下記の2-1) から2-3) までの事業はつながりのあることから一つにまとめている。

2. 事業

2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

1. 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に仏教思想を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳を進めている。現在、翻訳言語数は46言語。令和4年度は、『ポルトガル語仏教聖典』『ゾンカ語仏教聖典』の再改訂を終了し、インドの公用語であるマラーティー語を翻訳中である。

また『和文仏教聖典』を現代に即した内容にするための全面的な改定を行っており、より詳細な典拠の確認作業と本文の見直し作業を進行中である。

◇「仏教聖典」のホテル普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動を推進し、国内のホテル59軒、海外のホテル42軒より新規申し込みを受けた。

新規・補充を合わせた日本からの令和4年度の寄贈冊数は、国内8,907冊、海外6,497冊であった。海外協力機関からの寄贈も含めたホテル累計寄贈数は64カ国、15,775軒・4,162,071冊に至った。

◇聖典ボランティアによるホテルへの寄贈活動の促進について

地域に根差した布教活動を実施している僧侶・寺族の方がたに「聖典ボランティア」として仏教聖典のホテルへの寄贈活動の支援者として参画をお願いしている。

すでに75名が登録されて活動し、令和4年度の国内ホテル寄贈のうち、新規ホテル18軒 662冊、補充ホテル5軒 480冊がボランティアの実績である。

◇『簡体字仏教聖典』中国国内頒布について

令和2年、宗教文化出版社との図書出版契約に基づき、『簡体字仏教聖典』1万部を印刷した。現在、中国仏教会を通じて中華人民共和国内各地の寺院へ頒布すべく、中国共産党から最終の許可を得ているが、コロナの影響で、中国への渡航が制限され、既に印刷した1万冊の贈呈式ができない状態となっている。また令和3年度計画していた追加1万冊の印刷・頒布も計画を一時停止している。

◇「仏教聖典」の教育機関等への普及について

仏教的情操教育を推進するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、令和4年度、大学・短期大学72校、中学校・高等学校87校、保育施設867園を中心に行い、総計で31,884冊を寄贈した。平成24年度からの頒布開始以来、11年間の寄贈数累計は約498,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約70%に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として10,213冊販売した。

◇インターネットでの「仏教聖典」頒布について

より多くの方がたに、母語で仏教聖典に触れていただくために平成31年3月より各国語仏教聖典のPDFデータをホームページに掲載し、全世界からのダウンロードが可能となった。令和4年度も世界77ヶ国からさまざまな言語の聖典が7,546件ダウンロードされ、これまでの総ダウンロード数は19,947件となった。

また令和4年度は「仏教聖典」電子書籍版411冊、オーディオ版「仏教聖典」43冊を販売した。

◇「仏教聖典」のインド チャットィスガル州への頒布について

インド チャットィスガル州の仏教施設(ビハール・学校・病院等)38ヶ所に、『ヒンディー語仏教聖典』4800冊、『英文仏教聖典』5000冊、他「各国語聖典」30冊を寄贈した。コロナ禍で2年延期した企画であったが、リクエストレターを寄せていただいた多くの施設で感謝を持って迎えられた。

◇『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』頒布について

大学・高校等の教育現場で好評な『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』の普及活動を行い、25,829冊を寄贈した。またカラー版の『ブッダに学ぶさどりの言葉』と合わせ、全国寺院や書店などに1,420冊を販売した。

◇『ブッダのおしえ』普及について

『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブッダのおしえ』は、外国人観光客に日本仏教を紹介するツールとして好評を博している。令和4年度は全国の有名観光寺院やミュージアムを中心に、日本語版約35,000冊、各国語版約12,000冊を寄

贈した他に、日本語版約5,000冊を販売、合計52,500冊を頒布した。平成23年からの累計寄贈冊数は約1,270,000冊となった。

2. 英訳大蔵経の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため、「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を当協会と米国仏教伝道協会の共同事業として、第1期分139典籍の刊行を進めている。令和4年度は『三論玄義』『摩訶止観』の2典籍の翻訳を受領した。また、禅宗六祖慧能の弟子の永嘉玄覺(665-713)が、自ら得た悟り(証道)の要旨を格調高く歌いあげた『永嘉証道歌』、「唯識宗綱要」とも称される法相唯識学の綱要書『観心覚夢鈔』を収めた『永嘉証道歌・観心覚夢鈔』、唐の道世が668年に編纂した仏教百科全書『法苑珠林』の28-34巻を収録した『法苑珠林(5)』など4冊の書籍を刊行した。現在までに部分受領典籍を含めた97典籍を67巻の「英訳大蔵経」として出版し、23典籍が翻訳進行中である。

◇「英訳大蔵経」テキストTEI化について

TEI(Text Encoding Initiative)とは人文学資料デジタル化の世界基準でテキストのメタデータをインターネットで効率的に共有する規格である。この基準に準拠した英訳大蔵経のデータ作成を行う予定であったが、作業調整が難航し、令和5年度に持ち越しとなった。

3. その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

◇「一日一訓カレンダー」と解説書「みちしるべ」普及について

仏教の精神文化の裾野を広げるため「一日一訓カレンダー」とその解説書を制作、全国の寺院、学校、保育園等に頒布している。

令和4年度は、「一日一訓カレンダー」六波羅蜜シリーズ3冊目の『忍辱』を刊行。壁掛け型・卓上型を製作し、合計約128,000部を頒布した。また、カレンダー解説書—みちしるべ『真実を受け入れる—忍辱—』(執筆者 藤田一照氏、阿純章氏、前田壽雄氏)を教化教材として刊行し、約39,000冊を全国の寺院に頒布した。

◇『みちしるべ名講和選 -縁-』発刊について

大好評だったみちしるべ名講話選『智慧』『慈悲』につぐ第3弾として、「八正道シリーズ」「六波羅蜜シリーズ」の中の名法話を集めた『みちしるべ名講和選 -縁-』を9月に刊行し、主に寺院などに約24,000部を頒布した。

◇「一日一訓カレンダー」フォトコンテスト及び写真展について

写真を通してより多くの人びとに仏教に親しんでいただくため、「2024年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「第9回フォトコンテスト—ほとけの心」を開催した。令和4年1月から令和4年8月末までの応募期間中に738件2497枚が集まり、令和4年9月6日にカレンダーフォトコンテスト選考委員会を開催。厳正な審査の上、入選作品32点を選定した。入選作品を掲載したカレンダーは令和5年7月上旬発行予定。

また「第8回フォトコンテスト入選作品の写真展」を東京の築地本願寺(令和4

年4月23日-6月12日)、京都の平等院(令和4年7月1日-10月2日)、宮城の瑞巖寺(令和4年10月7日-11月24日)にて開催した。

平等院の写真展では、開催期間中の8月4日に渋谷画劇団による紙芝居ショーを開催し、宇治市の幼稚園2園(50名)を招待し、紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生』を披露した。翌8月5日、カレンダーの文言の揮毫を依頼している書家 鈴木猛利氏による「書道パフォーマンス」を昨年度に続き披露した。

瑞巖寺の写真展でも、10月7日のオープニングにあわせて渋谷画劇団による紙芝居ショーを開催した。

令和4年度は3会場合わせて期間中、約33.8万人の観光客が来場、入選写真と文言の書を鑑賞した。

◇「釈尊絵伝絵画展」について

令和4年12月7日から令和5年2月20日の期間、浄土宗大本山増上寺(港区)の宝物展示室前ラウンジにて「釈尊絵伝原画展 野生司香雪画伯〜釈尊に生涯を捧げた仏画家」を開催、釈尊絵伝原画7点を展示した。4700名が来場し、絵画を鑑賞した。

また期間中のイベントとして、令和5年、新年5日に増上寺本堂縁側にて「書道パフォーマンス」を開催した。揮毫した文字は、新年の希望の一字を公募する「願いの一字コンテスト2023(公募期間:2023年11月15日〜12月15日)」にて応募された中から「会」の一字を選定した。書は、増上寺境内、仏教伝道協会1階ロビーに展示したのち掛け軸にして保管している。

◇紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生』販売について

令和2年度より手塚プロダクション監修紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生』(消費税・送料込4,500円)を主に寺院向けに販売しており、令和4年度は234セットを販売した。

また、令和4年度は手塚治虫『ブッダ』連載50周年にあたり、仏教伝道協会主催・漫画家学会主管で、仏教系幼稚園・保育園を中心に紙芝居口演のキャラバンを開催した。幼稚園・保育園を主に18か所を巡演し、約1500名以上の園児らが鑑賞した。またオリジナルのぬりえを製作し、約1800部を頒布した。

◇『釈尊絵伝すごろく 煩惱/復刻版 浄土双六』の製作・販売について

当協会所蔵「釈尊絵伝」と曹洞宗大本山永平寺所蔵「インド壁画下絵」を使用したすごろく(裏面には「復刻版 浄土双六」収録)を製作し、令和3年7月より販売。価格は5,000円(消費税・送料込)。令和4年度は290個を販売した。

◇「こころの絵本大賞」開催について

鈴木出版(株)協賛、毎日新聞社・(公社)日本仏教保育協会・(公財)全国青少年教化協議会後援のもと、家族・友だち・勇気・いのち・おもいやり・愛情をテーマに、子どもたちにこころの大切さを伝えるための絵本作品を広く一般から募集する第7回「こころの絵本大賞」を開催。令和4年9月21日にこころの絵本大賞選考委員会が開かれ、129点の応募作品の中から入選作品8点を決定した。

第7回大賞受賞作品『なきごえがじまんのきつね』(作・絵/近藤えり)は、令和5年3月に刊行、全国の寺院・仏教系保育施設に約8,700冊を頒布した。

また、第6回大賞受賞作品『しろくまがきたぞ!』を寺院、保育施設を中心に約

12,000冊を頒布した。

◇「こころの絵本シリーズ」読み聞かせ映像YouTube公開について

合計発行部数 23万部以上となった「こころの絵本シリーズ」を、より多く方がたに知っていただくため、読み聞かせの映像をYouTubeに公開した。令和4年度は『ア
リがダンスをおどったら』を公開し、『ぼくのおまいりがながーいわけ』『がまぐ
ちさん』の2作品の動画を作成中である。

◇『とってもやさしい はじめての仏教』普及について

初心者向けに仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した冊子『とても
やさしい はじめての仏教』だが、令和4年度は和文 約35,000冊と、英訳版・中
国語繁体字版・中国語簡体字版・スペイン語版 約12,000冊を海外協力機関、寺院
やミュージアム、観光案内所などを中心に寄贈した。また、日本語版 5,000冊を販
売、合計 52,000冊を頒布した。平成27年度からの累計頒布冊数は約766,000冊とな
った。また、日本語版・英語版の電子書籍を無償公開しているが、令和4年度には
1,262件がダウンロードされ、累計ダウンロード数は9,700件となった。

2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留
学生奨学金交付制度を設けている。

令和4年度奨学生（通常令和3年度に募集・採用、令和4年度に支給）については
新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け募集を中止した。

なお、令和4年度は、新型コロナウイルスの影響により来日が延期となり支給時
期を変更した令和2年度奨学生 Jonathan Edward Thumas氏（ジョナサン・エドワ
ード・スマス氏、アメリカ国籍、東京大学史料編纂所、変更後支給期間：令和4年9
月から令和5年8月）、令和3年度奨学生 Lixin Zhang氏（張藍心氏、中国国籍、京
都大学、変更後支給期間：令和4年3月から令和5年2月）、Simona Lazzerini氏（シ
モナ・ラッゼリーニ氏、イタリア国籍、早稲田大学、変更後支給期間：令和4年5
月から令和5年4月）に奨学金支給を実施した。

また、令和4年度は令和5年度奨学生募集のため、世界の有名大学や研究機関へ留
学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでの一般公募に合わせて8
名の応募があり、令和4年10月3日に開催された仏教学者からなる外国人留学生奨学
金審査委員会の公正な審査により、Hee eon Pak氏（朴熙彦氏、韓国国籍、筑波大
学）、Gao Mingyuan氏（高明元氏、中国国籍、早稲田大学）の2名を選出した。

◇日本人留学生奨学金制度について

海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学ぶ、日本人の学者・研究者ま
たは学生に対して日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

令和4年度奨学生（通常令和3年度に募集・採用、令和4年度に支給）については
新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け募集を中止した。

なお、令和4年度は、新型コロナウイルスの影響により渡航が延期となり支給時期を変更した令和3年度奨学生 小坂有弘氏（ドイツ・ハンブルグ大学、変更後支給期間：令和4年4月から令和5年3月）に奨学金支給を実施した。

また令和4年度は令和5年度奨学生募集のため、日本の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでも一般公募し、結果1名の応募があり、令和4年10月3日に開催された仏教学者からなる日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、中山慧輝氏（ドイツ・ライプツィヒ大学、3年留学）を選出した。

◇「奨学生交流会」開催について

来日中の外国人奨学生およびその指導教授、これから留学する、または既に留学を終え帰国した日本人奨学生など開催時に日本に滞在している（元）奨学生を対象に、奨学金審査委員のご同席のもと、互いの研究内容を共有し、交流を深めていただく目的で「奨学生の集い」を開催していたが、令和4年度も新型コロナウイルスの世界的感染拡大の状況を受け開催を見送った。

2. 顕彰事業に関する事項

国内外を問わず、仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった個人または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる個人または団体に「仏教伝道文化賞沼田奨励賞」を贈呈する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

令和4年度は、4月下旬より仏教各宗派本山、仏教会、教務支所、仏教系学校、海外各仏教宗派教団本部等に約800通の推薦依頼書を送付、ホームページでも周知を図り、仏教伝道文化賞に25通、沼田奨励賞に19通の推薦書を受領した。

この推薦書をもとに、令和4年7月28日、仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、下記の1名、1団体に賞を授与する事を決定、同年10月27日、第56回仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金と記念の盾を贈り表彰した。

各受賞者名、受賞理由は次の通り。

- ・ 仏教伝道文化賞（賞金500万円） 田中昭徳 氏（聖観音宗 浅草寺 貫首）
受賞理由：仏教讃歌を数多く作曲し仏教音楽の現代化に寄与。
浅草寺を介しての伝道にも尽力。
- ・ 沼田奨励賞（賞金300万円） 社会福祉法人 東大寺福祉事業団
受賞理由：奈良仏教と華嚴の教えを基に難病の子と家族の為の施設を開設。親子の絆や縁の尊さを伝える。

3. 助成事業に関する事項

◇団体等への助成について

当財団の事業目的と同じ目的を持ち、その活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。令和4年度は、令和4年1月17日（月）に開催された助成金審査委員会の決定に基づき、以下の法人・団体に対して、国内18,400,000円、海外\$ 3,000,000（384,930,000円）、€ 111,000（15,501,010円）、CA\$ 240,000（25,471,200円）、SG\$ 6,700（630,872円）、3,200,000円の助成を実施した。

助成先法人・団体

〈海外・A. 沼田仏教講座新規開設及び運営維持助成金〉

カリフォルニア大学バークレー校

〈海外・B. 海外協力機関活動支援助成金〉

アジア仏教伝道協会、台湾仏教伝道協会

〈国内・C. 団体支援助成金〉

日本印度学仏教学会、特定非営利活動法人鎌倉てらこや、
フリースタイルな僧侶たち、公益財団法人中村元東方研究所

〈国内・D. 事業支援助成金 - D-1. 仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動〉

公益財団法人全国教誨師連盟、第46回全日本仏教徒会議山梨・身延山実行委員会、
京都府立医科大学附属病院化学療法部、全日本仏教青年会

〈国内・D. 事業支援助成金 - D-2. 仏教学術振興活動〉

龍谷大学龍谷ミュージアム、DH2022実行委員会

〈国内・継続分〉

身延山大学、野生司香雪画伯顕彰会、東京藝術大学大学院

〈海外・継続分〉

ハンプルク大学（「沼田仏教学センター」）、ライデン大学、
マクマスター大学、国立政治大学、ウィーン大学

2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

◇仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の方々に、英語を通して仏教精神を学んでいただくことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催してきた。平成28年度からは講座参加者の学習意欲向上と外国人観光客に英語で仏教を説明できる人材を育成することを目的として衣替えした「仏教英語ガイド」プログラムとして3級コースと2級コースを設け、それぞれ月1回の講座開催してきた。本「仏教英語ガイド」プログラムは令和4年度をもって終了することとし、前年度3級修了生を対象に2級コースのみを実施。29名の受講登録者のうち23名が修了試験を受験、合格し、プログラムを修了した。修了生内7名の希望者に仏教英語ガイドボランティアとしての推薦状を発行し、4名の方が実際に築地本願寺の奉仕団員に英語ガイド要員として登録を行った。

◇「体験して学ぶ英語で仏教」について

体験学習と座学によって、経験に基づく知識と活きた仏教英語表現を学ぶことを目的とした「体験して学ぶ英語で仏教」を令和4年6月14日から10月29日までの期間で計6回開催した。会場参加25名定員一杯の申込があり、講義による学びだけでなく、フィールドワークや禅体験を組み合わせたプログラムが好評を得て、参加満足度の高い講座となった。各回のテーマおよび講師は下記の通り。なお、座学講座の会場はすべて京都経済センター会議室（京都市下京区）にて開催した。

開催日程	テーマ	講師名
6月14日（火）	禅に学ぶ仏教の慈悲と智慧（座学）	ネルケ無方氏 （曹洞宗僧侶）
7月3日（日）	坐禅体験 （京都府宇治市、曹洞宗興聖寺）	
8月25日（木）	仏教を楽しもう -清水寺で仏と神の世界を理解する-（座学）	リサ・グランバック氏 （龍谷大学講師）
9月3日（土）	清水寺スタディーツアー （京都府東山区、北法相宗清水寺）	
10月20日（木）	真理の影（かたち） -興福寺の仏像に出会う-（座学）	ザイレ暁映氏 （法相宗大本山興福寺録事）
10月29日（土）	興福寺スタディーツアー （奈良県奈良市、法相宗大本山興福寺）	

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが、「聞・思・修」一体となった仏道を自ら体験することによって、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

令和4年度は、6月1日から6月3日の間、伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「比叡山の仏道～回峰行に学ぶ」をテーマに掲げ、天台宗 総本山 比叡山延暦寺（滋

賀県)を会場に「第50回実践布教研究会」の開催。全国より宗派を超えて30名の僧侶が参集した。

初日の開講式では天台座主 大樹孝啓猊下にご臨席を賜りお言葉を頂戴した。二日目は、小鴨覚俊氏(比叡山延暦寺 副執行総務部長)ご先達のもと諸堂を参拝、宮本祖豊氏(比叡山延暦寺一山 観明院住職)には「布教伝道～最澄上人のねがい」を講題に講義を頂戴した。3日目は午前1時に起床し、延暦寺僧侶方先達のもと回峰行を实践した。

分科会では「コロナ禍における仏教伝道」をテーマに、参加者同士の活発な意見交換が行われ、宗派を越えて互いに親睦を深めるとともに研鑽を積んだ。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として、一般の方がたを対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。令和4年度はご講師に名取芳彦氏(もっとい不動 密蔵院住職・真言宗豊山派)、新たに松本智量氏(延立寺住職・浄土真宗本願寺派)を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集した。計10回開催、のべ173名の参加があった。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び、事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的として、主に事業経営者や社会人を対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。令和4年度はご講師に一楽眞氏(大谷大学教授)、千葉公慈氏(東北福祉大学学長)を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集。計10回開催、のべ218名の参加があった。また今年度は講義後に講師を囲んで懇親会(参加費1000円)を開催、計10回71名が参加した。

経営に活かす会、生活に活かす会の「合同研修会」は、令和4年4月12日、「親鸞聖人を訪ねて」と題し、茨城県の別格本山稲田御坊西念寺、つくば恵光寺、牛久大仏を参拝した。19名が参加した。

◇BDKシンポジウムについて

令和4年度は下記の4回のシンポジウムを企画、実施した。

各シンポジウムの開催概要は下記の通り。

令和4年度第1回BDKシンポジウム(通算28回目)

テーマ:「生死を問う」

開催日時:令和4年7月13日(水) 18:30～20:30

会場:TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前(会場、オンライン同時開催)

講演者:藤田徹文氏

(2019年仏教伝道文化賞受賞、浄土真宗本願寺派光徳寺前住職)

小川一乗氏

(2021年仏教伝道文化賞受賞、真宗大谷派西照寺前住職)

本シンポジウムは仏教伝道文化賞受賞者による講演会として、第53回および第55回の仏教伝道文化賞受賞者の両氏を招き開催。

藤田氏は「あなたは死後どこへ～今、ここを生きるあなたに」をテーマに、小川氏は「仏教の根本にあるもの～ガン告知と仏教」をテーマに講演。

また一人でも多くの方にご参加いただきたいとの願いから、当協会初の試みとして北海道手話派遣センターの手話通訳者2名による講演時の同時手話通訳を実施した。会場参加32名、オンライン参加60名。

なお、本シンポジウムは令和3年10月20日に本願寺札幌別院（札幌市）で開催予定であったが新型コロナウイルスの影響のため、1年延期していたものである。

令和4年度第2回BDKシンポジウム（通算第29回目）

テーマ：「人は人を救えるのか -教誨師の活動から考える-」

開催日時：令和4年9月10日（土）13:30～16:00

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：谷澤正次 氏

（公益財団法人全国教誨師連盟事務長、元府中刑務所法務教官）

油谷弘幸 氏（教誨師、カトリック東京教区司祭）

久保井賢丈 氏（教誨師、曹洞宗大泉寺住職）

教誨活動の第一線で活躍している講師3名を迎え、収容施設における教誨活動の現状、カトリックおよび仏教の教誨師2名に、それぞれのお立場から教誨活動とはなにか、テーマである「人は人を救えるのか」について講演。また後半では、参加者からの質問を基に講師3名によるクロストークを行った。会場参加26名、オンライン参加38名。

なお、このシンポジウムの模様は聴覚障害をお持ちの方にもご覧いただけるよう手話表現、字幕付き動画を仏教伝道協会YouTubeチャンネルで配信している。

令和4年度第3回BDKシンポジウム（通算第30回目）

テーマ：「争わない生き方 -宗教の役割を問う-」

開催日時：令和4年11月12日（土）13:00～16:00

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：永井陽右 氏（NPO法人アクセプト・インターナショナル代表理事）

小原克博 氏（同志社大学神学部教授、良心学研究センター長）

災害や疫病、戦争が日常となった現代社会で「争わない」ために宗教が果たす役割を考える機縁とすべく開催。永井氏は「テロ・紛争解決における新たなアプローチ～対話ができないテロ組織に何ができるか？～」と題し、いわゆるテロ組織の投降兵や逮捕者の社会復帰支援に宗教再教育を取り入れるなかで感じた宗教の役割について講演。小原氏は「争いを激化させないためにできること～一宗教の歴史と現実から考える～」と題し、争いの背景にある人間と現代社会の特性、

一神教における争いの歴史、宗教リテラシー教育の必要性など講演いただいた。
クロストークでは異なるフィールドで活躍するお二人の意見交換が活発に行われ、争いと宗教の関わりについて考える機会となった。会場参加27名、オンライン参加20名。

令和4年度第4回BDKシンポジウム（通算第31回目）

テーマ：「仏像の美 -なぜ人は祈るのか-」

開催日時：令和5年3月4日（土） 13:00～16:00

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：岡田 靖 氏（東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻
保存修復彫刻 准教授）

加藤 巍山 氏（仏師・彫刻家）

小島 久典 氏（東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻
保存修復彫刻 助教）

西山 厚氏（奈良国立博物館名誉館員・東アジア仏教文化研究所代表）

本シンポジウムは、人々に祈りや救いを与える力を持つ仏像の美しさについて考える機会として、立場の異なる4名を講師に迎え開催。

岡田氏には「宗教的偶像の美 ～信仰から生まれる美しさ」と題し、宗教全般における偶像の意義、加藤氏「芸術と祈りの融合 ～祈りのかたちとは」と題し、東日本大震災被災地への仏像奉納のお話から祈りと仏像の関係、小島氏には「仏像の模刻 ～追体験としての彫刻」と題し、模刻製作から見えてくる仏像の美と仏師の思い、そして西山氏には「仏像に会う」と題し、祈りの蓄積としての仏像について講演いただいた。「仏像の美」を構成するさまざまな要素について多角的に仏像について考える貴重な機会となった。会場参加53名、オンライン参加48名。

◇BDK仏教ヨガ講座について

一般の方がたを対象に、身体と心の健康を養い、心や頭の整理をする場を持っていただくことを目的に、平成27年4月より月1回（毎月第1水曜日、午後7時から午後8時30分まで）「BDK仏教ヨガ講座」を開催している。講師は高野山真言宗の僧侶でヨガインストラクターのMOMO氏に依頼し、仏教の法話とヨガの実践、瞑想を交えた講座を会場参加、オンライン参加同時にて開催した。8月と9月はケン・ハラクマ氏を特別講師として招いた。令和4年度の延べ参加人数は492人であった。（会場281名、オンライン211名）

◇仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」について

平成28年度より一般の方がたを対象に、日本仏教の宗派を毎月ひとつ取り上げて各宗派の基本的な教えや宗祖や著名な僧侶について解説する、仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」を開講している。

令和4年度も4月から11月まで、月1回（午後6時30分から午後8時30分まで）、対面とオンラインで同時開催。年間講座参加者数は会場のべ131名、オンラインのべ406名であった。

令和4年度の開講概要は以下の通り。

開催日程	宗派・宗祖	講師名
4月26日（火）	天台宗・最澄	小林恵俊氏（天台宗正明寺 法嗣）
5月31日（火）	真言宗・空海	天野高雄氏（高野山真言宗高蔵寺 住職）
6月28日（火）	浄土宗・法然	林田康順氏（大正大学 教授）
7月19日（火）	浄土真宗・親鸞	井上見淳氏（龍谷大学 准教授）
8月30日（火）	時宗・一遍	岩田尚登氏（時宗満福寺 住職）
9月27日（火）	臨済宗・栄西	松本隆行氏（臨済宗建長寺派能満寺 住職）
10月25日（火）	曹洞宗・道元	千葉公慈氏（東北福祉大学 学長）
11月29日（火）	日蓮宗・日蓮	谷川寛敬氏（日蓮宗真成寺 副住職）

また、年間の定例講座ではカバーしきれなかった「奈良仏教」について、令和5年2月28日（火）に東京大学名誉教授の末木文美士氏を講師に迎え仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」2022特別編「奈良仏教を学ぶ」を会場とオンラインで同時開催した。平城京の発展とともに大いに栄え、日本仏教の礎をつくった南都六宗（三論宗、成実宗、法相宗、俱舎宗、華嚴宗、律宗）と呼ばれる各宗派の特徴や通底する思想について、幅広く紹介していただいた。参加者は会場41名、オンライン79名であった。

◇特別坐禅会について

一般の方がたを対象に坐禅とヨガのワークショップ、精進料理を体験しながら仏教を学ぶ「特別坐禅会」を平成28年から4回にわたり開催してきた。令和4年度は令和4年11月19日（土）に曹洞宗大本山總持寺（3年ぶり5回目）にて開催した。ヨガ指導はケン・ハラクマ氏を、法話は曹洞宗研究センター研究員の宇野全智氏に依頼し、参加者はヨガ、法話、坐禅、精進料理（希望者のみ）を体験した。79名の申込みがあり当日参加人数は68名だった。

◇体感する仏教 ～目黒編～について

「さまざまな宗派のお寺で実践体験できる」というコンセプトのもと、ひろく一般の方がたに仏教を体験していただく「体感する仏教 ～目黒編～」を令和4年11月27日（日）に開催した。コロナ禍で2年延期した企画だが、令和4年度は参加者を絞り13名で開催することが出来た。五百羅漢寺で念仏を体験したのち、目黒不動尊では護摩行を見学した。

◇ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」について

若年層へのアプローチと仏教伝道協会の知名度の拡大をはかるため、関西圏をカバーするFM大阪にて、ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」の放送を平成30年6月より開始し、令和2年度からは放送時間を15分（毎週土曜日24時15分～24時30分）拡大し令和4年度も継続した。偶数月は僧侶、奇数月は著名人等をゲストに招き様々な角度から仏教を取り上げた。Twitterを中心にしたSNSを通じて口コミが広がり番組の認知度がさらに向上した。ポッドキャストで関西圏以外からも視聴可能なため、海外を含めて全国からメッセージが寄せられ、好評を得ている。

◇「輝け！お寺の掲示板上大賞2022」について

寺院に設置されている掲示板上の標語を撮影して、インターネットのSNS（TwitterやInstagram）に投稿してもらい、反響等を参考にしながら大賞を決定する「輝け！お寺の掲示板上大賞2022」を開催した。第5回目を迎えた令和4年度は7月1日から10月10日まで作品を募集。今回も投稿された作品がテレビ・ラジオ・週刊誌など数多くのメディアに取り上げられ、約3ヶ月の応募期間の間に前年を上回る総計4,093作品が集まった。今回の大賞は浄土宗龍岸寺の掲示板上（標語内容「武器を捨て 数珠をもとう」）が選ばれた。

◇山梨県仏教会主催 全日本仏教徒会議山梨・身延山大会ブース出店について

令和4年10月7日（金）～8日（土）、身延山久遠寺、身延山大学にて山梨県仏教会主催、公益財団法人全日本仏教会共催にて第46回全日本仏教徒会議山梨・身延山大会が開催された。全日本仏教界加盟団体、山梨県仏教会加盟・未加盟寺院、檀信門徒、一般市民が参加する同大会にブースを出店し、仏教伝道協会の活動を周知に努めた。

◇オンライン法話会「週刊法話ステーション」について

令和4年度もコロナ禍によりお寺でのさまざまな行事が中止や延期を余儀なくされた。少しでも多くの方に仏教に触れる機会を増やすべく、仏教伝道の原点のひとつである“法話”を広く一般の方がたへお届けした。ZOOM配信を使用し毎週、各宗派の僧侶に法話をいただいた。令和3年1月の放送開始から令和5年3月末までの放送回数は計105回。総視聴者数は2178名。また、アーカイブを仏教伝道協会公式YouTubeチャンネルより配信しており、令和4年度の視聴回数合計はのべ8500回となっている。

◇「先学に聞く」について

令和4年度からの新企画として仏教者（僧籍の有無を問わず85歳以上が目安）へのインタビューを実施し、記事とダイジェスト動画を順次ホームページに掲載している。各種SNSでの広報も展開、YouTube再生回数はのべ1000回再生を越え、長期の視聴が見込まれる反響を得ている。

令和4年度のインタビュー実施実績は以下の通り。

	インタビュー日	氏名 [生年]	経歴
1	5月19日（木）	渡邊寶陽 [1933-]	立正大学 特別栄誉教授
2	6月24日（金）	荒牧典俊 [1936-]	京都大学 名誉教授
3	7月15日（金）	宮城泰年 [1931-]	聖護院門跡 門主
4	10月28日（金）	木村清孝 [1940-]	東京大学 名誉教授
5	11月18日（金）	吉田宏哲 [1935-]	大正大学 名誉教授
6	2月8日（水）	北畠典生 [1928-]	龍谷大学 名誉教授

上記のうち、1から3を令和4年3月末までにホームページに公開。

2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤を確立することを目的に、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

令和4年度は、仏教音楽祭の予定はなく、音楽普及委員会の開催もなかったが、「築地本願寺のパイプオルガンの入替プロジェクト」が進み、年度末にイタリアのZanin社と正式に契約締結、電気式パイプオルガンの製作に入った。

3. 三田落語会の事業について

(株)文化放送、(株)エムアイティギャザリングの主催する「三田落語会」に、協賛団体として3公演分（のべ853名参加）の協賛広告費75万円を支出した。

4. 貸し会議室事業に関する事項

◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進し、もって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献を果たしている。

令和4年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は145件であった。

II. 収益事業報告（収1）

◇収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間は一般に向けて貸与する事業を行っている。

令和4年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は128件であった。

Ⅲ. 事務報告

1. 役員等に関する事項

理事・監事

(令和5年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
会長 (代表理事)	木村清孝	非常勤	令和3年6月25日 (再任) 令和3年6月25日 代表理事再任	東京大学名誉教授
理事長 (代表理事)	桂 紹隆	非常勤	令和3年6月25日 (再任) 令和3年6月25日 代表理事再任	広島大学名誉教授 龍谷大学名誉教授
常務理事 (代表理事)	青木晴美	常勤	令和3年6月25日 (再任) 令和3年6月25日 代表理事、常務理事 再任	元株式会社ミットヨ 取締役常務
理事	門脇邦彦	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	日本空港ビルデング株式会社 名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元富士銀行代表取締役常務
理事	生田忠士	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元株式会社ミットヨ取締役
理事	沼田恵明	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	株式会社ミットヨ 代表取締役社長
理事	塩入亮乗	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	浅草寺本堂部
監事	中野東禅	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	竜宝寺前住職
監事	松村智司	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元第一勧業銀行取締役

評議員

(令和5年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	中川 徹	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元株式会社ミットヨ会長
評議員	平田史郎	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	国府台女子学院学院長
評議員	西本照眞	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	武蔵野大学学長
評議員	逸見道郎	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	浄土寺住職
評議員	石井清純	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	駒澤大学教授 駒澤大学第31代学長
評議員	吉水千鶴子	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	筑波大学教授
評議員	渡邊清春	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	株式会社ミットヨ執行役員 財務部長
評議員	三原正資	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	元日蓮宗現代宗教研究所所長
評議員	高山久照	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	公益社団法人日本仏教保育教会理事長
評議員	佐藤和敏	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	株式会社共生代表取締役社長

※阿 純孝氏は令和4年12月31日付をもって辞任。

顧問

(令和5年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
顧問	北畠典生	非常勤	平成25年4月1日	浄土真宗本願寺派勧学
顧問	高島孝範	非常勤	平成25年4月1日	仏教伝道協会元常務理事

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和4年6月8日（水） （令和4年度第1回通常）	【決議事項】 令和3年度事業報告および収支決算報告の件 令和4年度定時評議員会開催の件 【報告事項】 令和3年度資産運用報告の件 貸金ベースアップの件	可 決 可 決 可 決 報 告 報 告
令和4年11月22日（火） （令和4年度第2回通常）	【決議事項】 海外協力機関活動支援助成金の件 パイプオルガンの購入および使用貸借の件 重要な使用人の解職の件 【報告事項】 代表理事の職務の執行の状況の報告 令和3（2021）年度助成金事業実施評価報告の件 育児介護休業規定改定報告の件	可 決 可 決 可 決 報 告 報 告 報 告
令和5年3月24日（金） （令和4年度第3回通常）	【決議事項】 令和5年度事業計画および収支予算書承認の件 役員賠償責任保険契約締結の件 【報告事項】 代表理事の職務の執行の状況の報告 委員会委員委嘱について 阿純孝評議員退任について	可 決 可 決 報 告 報 告 報 告

(b) 監事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和4年5月26日（木）	令和3年度財産状況および業務執行状況	正確であることを確認

(c) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和4年6月24日（金） （令和4年度定時）	【決議事項】 令和3年度事業報告および収支決算報告の件 【報告事項】 令和4年度事業計画および収支予算の件 令和3年度資産運用報告と令和4年度資産運用方針および計画の件 貸金ベースアップの件	可 決 報 告 報 告 報 告

以 上

令和4年度事業報告 附属明細書

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年6月
公益財団法人仏教伝道協会
代表理事（理事長） 桂 紹隆